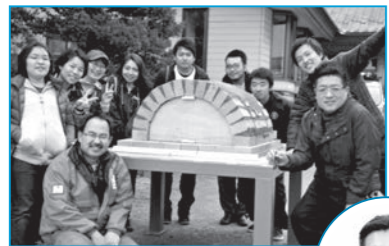


地域活動専門員日誌

ピザ釜で地域を元気に



完成したピザ釜

地域づくり担当
佐々木光広さん

上郷町の若者らで組織する「上郷元気隊」はピザ釜を手作りし、各種イベントでのピザ販売を始めました。

ピザ釜は旧上郷中に拠点を置く(公社)青年海外協力協会(JOCA)の協力を得て作成。6月1日に開催された上郷町ふれあいイベントでお披露目しました。当日は地元の中高生と一緒にピザの調理・販売を行い、大盛況。ピザ釜を活用したイベントなどを企画し、地域を元気にしていきたいと思ひます。

人馬一体の力走に大興奮

柏木平で東北馬力大会開催



1・2_人馬一体で坂を駆け上がると会場の熱気はさらにヒートアップ 3_4年ぶりに復活したポニーレース



第39回東北馬力大会馬の里遠野大会(同実行委員会主催)は6月22日、

宮守町の柏木平優遊広場特設会場で開催されました。訪れた6,700人は、手に汗握る人馬一体の競走を楽しみました。レースは、300kgから975kgの重りを載せたそりを引き、2つの障害を越えタイムを競うもので、ポニーから一流馬までの36頭が出場。引き手の力強い掛け声と障害を一気に駆け上がる馬の勢いが会場を湧かせました。折笠正人さん(60)=福島県=は「初めて観戦。迫力あるレースに圧倒されました」と満喫していました。



青空の下、田植えに初挑戦

ふるさと発見探偵団開催

体験学習を通じて遠野の自然や歴史を学ぶ「少年少女ふるさと発見探偵団」((一財)遠野市教育文化振興財団主催)の第1回活動は5月31日、上郷町の廻たつ地区で行われました。市内の小学生と高校生ボランティアら30人は、田植え体験に挑戦しました。田んぼは、(公社)青年海外協力協会(JOCA)が地域の活性化や海外支援を目的に休耕田を復活させたもの。子どもたちは、地元の人やJOCAのスタッフに植え方を教わりながら丁寧に植えていました。菊池詩菜さん(遠野北小6年)は「難しかったけど楽しかった。自分たちが植えたお米を食べてみたいです」と汗をぬぐいました。



1_田植え終了後、さわやかな笑顔で集合写真 2・3_手や足を泥まみれにしながら果敢に挑戦。水田20㎡に「いわてっこ」、「あきたこまち」の苗を植えました

祝百歳

佐藤茂雄さん(①)、君崎スエさん(②)、照井喜子さん(③)の宮守町の3人と、松崎町の脇山フミさん(④)、大正3年生まれの人4人が100歳を迎えられました。家族らが祝福する中、皆さんには本田市長らから記念品が贈呈されました。



① 佐藤茂雄さん (宮守町) 5月18日、自宅にて

佐藤さんは宮守町の生まれで、妻・ミヨさん(故人)と結婚。家業の酪農や農業に励みながら子ども4人を育てました。現在は孫8人、ひ孫10人、やしやご2人に恵まれ、病気もなく、散歩を毎日行うなど元気に暮らしています。この日は家族や親族から、花束やバスデーソングなどの祝福を受けると「ありがとうございます」とほほえんでいました。



② 君崎スエさん (宮守町) 5月24日、みやもりmm1にて

君崎さんは宮守町の生まれで、22歳で夫・熊藏さん(故人)と結婚。この日は祝賀会に駆け付けた家族や親族から花束なども贈られ、君崎さんは「たくさんの人に祝ってもらえてうれしい。ありがとうございます」と感激していました。手先が器用な君崎さん。この日のために1年かけて編んだ300足の靴下を親族らに配り、自ら参加者をもてなしていました。



③ 照井喜子さん (宮守町) 6月6日、特別養護老人ホーム「みやもり荘」にて

照井さんは宮守町の生まれで、夫・宇一郎さん(故人)と結婚。夫婦二人三脚で農業に励み、現在は同施設で穏やかに過ごしています。祝賀会では親族や利用者が見守る中、くす玉割りなどが行われ、照井さんは「ありがとうございます。とてもうれしいです」とにっこり。また、照井さんは得意な歌を披露し、元気な歌声を会場に響かせました。



④ 脇山フミさん (松崎町) 6月16日、「ふれあいホーム葉研淵」にて

脇山さんは松崎町の生まれで、22歳で夫・五兵衛さん(故人)と結婚。夫が徴兵中には、農業に励みながら一人で子どもを育てました。現在は同施設の皆さんと会話を楽しみながら、花の手入れをするなど元気に過ごしています。この日は親族や利用者らから祝福を受け、「元気に暮らしていけるのは家族のおかげ。ありがとうございます」と感謝しました。

みらい創りカレッジ通信

6次化のヒントを探る



対話を深める参加者

「春のオープンカレッジ」を6月7日に開催しました。今回は6次産業化がテーマ。農業関係者や一般企業の社員ら30人が参加し、対話などを通じて意見交換しました。最初は緊張していた参加者も、対話を重ねるうちに活発にアイデアを出し合えるように。6次産業化のヒントを探り、地元の農業関係者の交流を深めることもできました。アイデアを持っていても、それを共有する機会は少ないもの。アイデア同士を結びつけ、課題解決の糸口を見つけられるよう、今後も支援していきます。

遠野の水源地を森に戻す 土淵小の児童が植樹体験

NPO法人遠野エコネット(千葉和代表)は5月27日、琴畑高原で植樹活動を行いました。同法人は遠野の水源地である高原をかつての森に戻すため、10年前から活動を展開。この日は、環境教育の一環で土淵小学校の4年生18人と一緒に活動にあたりました。

児童たちはスコップで土を耕し、1人3本ずつミズナラの苗を植え、シカ害対策用の器具の取り付けにも挑戦。活動を通じて森林の役割や水の大切さを学びました。荒川響介君は「学校の畑の土より硬くて掘るのが大変。大きな木に育ってほしいです」と願いを込め植樹しました。

大きく育ってね!



1_植樹方法を学びました 2_夢中で器具の取り付けをする児童たち。完成後は木の高さを計測しました